

平成29年度 基盤研究（S） 審査結果の所見

研究課題名	トランスポゾン侵略から生殖ゲノムをまもる piRNA 作動原理の統合的理解
研究代表者	塩見 美喜子 (東京大学・大学院理学系研究科 (理学部)・教授) ※平成29年6月末現在
研究期間	平成29年度～平成33年度
コメント	<p>トランスポゾン転移による生殖細胞ゲノム DNA の損傷を阻止する piRNA 機構解明に関する、国際的にも高い評価を受けている研究である。応募者は本現象において先駆的な研究を展開してきており、生化学的な解析を行うための材料及び技術も揃えている。生化学、遺伝学、細胞生物学、構造生物学、生物情報学等の多様な手法を駆使して、生殖系体細胞における piRNA の生合成、piRNA サイレンシング、生殖細胞における piRNA 生合成に関与する新たな因子の同定や各因子の機能解明が十分期待できる。</p> <p>なお、これまでの研究との明確な違いや、新たな視点に欠けるとの懸念もあったが、基盤研究(S)として推進することが適当と判断した。</p>